

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)	良く なっている	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新型車効果で来客数は増加し、販売も好調で、エコカー補助金のあった前年を上回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は大変暑かったので乗っていただいたということもあるが、乗客からも調子が悪いという話は聞かない。また、七夕まつりも開催され、人も多かった。人が集まるといことは、景気もある程度良くなっているのではないかと。
		テーマパーク (職員)	単価の動き	・トップシーズンである夏休みになり、観光地で過ごす人が多いなか、商品の動きや購買単価が格段に上がっているのが実感できる。
やや良く なっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年8月の商店街は気候やお盆などの帰省客、行楽客に大きく左右される。今年は前年よりも人が多い割に消費は伸びていないが、人が増えてきたということを一応プラスにとらえておきたい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・雨量も少なく、ゲリラ的な集中豪雨もなく、夜は飲食を中心に来客数が多くなっている。ねぶた祭り等の大きなイベントでも人出は若干増えている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・来客数は前年比100%だが、販売単価が前年よりも100円ほど上昇しているため、その分売上が良くなっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・宝飾品、時計を中心に高額品が売れており、消費者の購買意欲は引き続き堅調である。今月は天候が安定していることに加え前月の天候不順の反動もあり、夏物最終セールが好調で、婦人服を始めとしたアパレル商品の売上が良い。一方で、中元商戦については震災後3年目ということで需要の落ち着きもあり、前年をやや下回っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・夏物のクリアランスセールも一段落し、猛暑も落ち着いてきたことから、8月前半は動きの鈍かった秋物が動き出してきている。その結果、前年を上回る売上がとれてきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・連日の猛暑で夏型商材の動きが好調であり、店舗業績も3か月前に比べ、3%ほど増加している。
		スーパー（物流担当）	販売量の動き	・猛暑、お盆期間ということを除いても、商品の動きが良くなってきている。ただし、相変わらず1点単価は低いままで、特売チラシ等に左右される客の購買状況は変わっていない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月初めの天候が悪く気温が低かったため、スタートはかなり厳しかった。しかし、前月同様、購買意欲が向上しているようで、徐々に回復し、前年比で客単価が3%、買上点数が7%の上昇となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店出店の影響が落ち着き、少しずつではあるが客が戻ってきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・お盆は好天に恵まれたこともあって来客数が前年を超えている。競争環境が悪化した店舗があるなかでの実績であり、人の動きが確実に活発になっていることがうかがえる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温に左右される商売なので、8月の上旬は低温が続き芳しくなかったが、その後は気温が高い日が続き、売上も前年を超している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・梅雨明け後、一気に季節商材へのニーズが高まり、夏物商材の動きが活発になっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏場の猛暑により、エアコン、冷蔵庫が好調である。猛暑の影響もあるが、来年消費税が上がるということで、新築した客が家電製品を買うという動きが出ているようである。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税率が上がるのではないかとという憶測で、購入を早めようとする人が増えてきている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・8月に入り、やっと梅雨明けして夏物商材の動きが活発になったが、前年に比べ来客数が減っている。客単価は上がっているものの、全体的には盛り上がりが見られない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	単価の動き	・前年の売上金額は維持しており、特に夏物衣料品のセールが好調に推移している。婦人用的高額品と、単価の低いカジュアルウェア用品のまとめ買いにて売上が伸張している。		

	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・お盆休暇、夏祭り観光等の集客が思いのほか順調で活気がみられる。この流れが秋口まで続くかは未知数だが、期待感が持てる動きとなっている。
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・このところ減っていた来客数がようやく改善されてきている。
	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	お客様の様子	・注文の成約率、受注数、受注単価は、引き続き好調である。
	その他住宅 [リフォーム] (従業員)	販売量の動き	・供給高が予算を達成し、前年と同程度までに回復している。来客数も予算には及ばないものの、前年実績が見えるところまできている。
変わらない	商店街 (代表者)	お客様の様子	・今の来客の動向からみると、必要なものだけを必要などきに消費しているようで、無駄な消費はない。
	商店街 (代表者)	販売量の動き	・8月は諸行事が多く来街客も増えるため、潤う飲食店が多いが、街が混むことにより常連客が減ったという飲食店もある。来街客増もその程度によっては苦勞が多い。
	商店街 (代表者)	来客数の動き	・好転材料がなく活気がない。商店街からも、消費者からも無力感が伝わってくる。
	商店街 (代表者)	お客様の様子	・8月上旬に梅雨明けしたものの、景気はあまりパツとしない。生鮮野菜、食品関連の動きも悪い。婦人服店ではセール時期も決めかねていた。年間のビッグイベント、七夕夏祭りもやや盛り上がり方に欠けている。
	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・8月は七夕まつりがあるので、中旬のお盆のころまでは客も非常に多かったが、20日を過ぎると途端に客足が落ち込んでいる。月の前半が良くて、後半が悪いという状況である。
	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・来客数、客単価共に横ばいである。初旬は極端に悪かったが、中旬に入ってそのマイナス分をカバーすることができた。アベノミクス効果による景気押し上げの実感はまだないが、逆に悪くなくてもいい。ただし、従来の上得意客の多くが経済的に余裕を失い、逆に今まで節約志向だった客や新客に消費意欲の高まっている様子が見える。昨今の積極的な経済政策の結果、生活防衛に向かう年金生活者がいる一方で、勤労者層の消費意欲が高まっているようである。
	一般小売店 [カメラ] (店長)	販売量の動き	・高額商品の販売はやや上向きで推移しているものの、低価格商品は激減傾向が続いている。
	百貨店 (売場主任)	お客様の様子	・来客数、客単価が落ちている。買い方も慎重で、じっくり選んで本当に必要なものだけ購入している。初秋商材の動きもまだ鈍い。
	百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・来客数は前年を若干上回っているが、1人当たりの購買点数はなかなか上がってこない。高額品の売行きは引き続き上向きであるが、全体を押し上げるまでではない。客単価が伸び悩んでおり、販売高としても上向きにはなっていない。
	百貨店 (企画担当)	販売量の動き	・帰省、お祭りなど活発な人の動きはあったが、商品販売動向はここ数か月変わっていない。衣料品はセールの前倒しにより苦戦しているものの、高額商品の動きは良い。高額商品のなかでも高級時計は、お盆期間などは県外客の購入もみられた。
	百貨店 (経営者)	来客数の動き	・局地的な豪雨があるなど、天候不順となっている。雨中は入店客もなく商売に大きな影響が出ている。晩夏、初秋物は堅調だが、気温が低いせいか夏物衣料品が厳しく、足を引っ張っている。生鮮を中心とした食品も厳しい。一方で、時計、宝飾、美術品など高額品は一部の富裕層により引き続き堅調となっている。
	スーパー (経営者)	来客数の動き	・夏らしい天候で安定していることや、お盆の休暇期間が長かったことにより、トータルで来客数がプラスになっている。買上点数も高い気温で飲料など涼味商材が増加している。
	スーパー (経営者)	単価の動き	・8月の既存店は、1品単価も買上点数も推移はほぼ前年並みである。来客数が若干減で、客単価がそれをカバーする状況に変わりはない。
	スーパー (店長)	お客様の様子	・7～8月にかけての来客数、客単価、1品単価はいずれも98%台で推移しており、前月と変わりはない。
スーパー (店長)	来客数の動き	・来客数、買上点数共に変わっていない。	
スーパー (店長)	来客数の動き	・地域の経済にアベノミクスの効果は及んでおらず、客の買物もどちらかというとシビアであり、安いところに行く傾向がある。財布のひもも非常に固い。	

スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価は変わっていない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前と依然変わらず、悪い状態をキープしているというのが正直なところである。人口が減っていることもあるが、やはり、工場閉鎖といったことも大きい。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回るトレンドは変わらない状況である。毎月2～3%の減少が続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年より天候に恵まれているが、来客数は回復していない。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・原材料の高騰により仕入価格が徐々に高くなり、小売価格に反映してきている。一方で、来年の消費税率アップの懸念から、前倒しで作業服等の受注も増加してきている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税率が上がりそうなこともあり、雰囲気が良くない。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・スーツの売上は依然厳しいが、スーツの売上分を礼服でカバーしている。
衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・買上点数、客単価共に大きな変化は無い。消費活動も活発になっている様子はうかがえない。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節商材の販売が好調に推移したため、前年売上は取れている。しかし、来客数は減少しているため、景気が回復しているわけではないようである。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑への期待を込めた夏商戦であったが、扇風機やエアコン等は思うように台数が伸びていない。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・土日の客の動きが3か月前と変わっていない。
乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・新車検討の客が減少傾向にあるようである。しかし、代わりに高額修理や車検の要望が増え、工場の収益状況は悪くはない。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新築の客が少しずつ見え始めているが、来客数が増加していないため、売上は前年比で減少している。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月はお盆がからんだ月であったので、仏壇、仏具の販売をしている当店では仏事用の小物の販売が好調であった。しかし、単価の大きい商品は相変わらず低迷している。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・来客数はお盆ということもありまずまずだが、売上の柱になる商材に乏しく、地道に営業を重ねて何とか前年に近い数字を出している。しかし、前年が大きく落ち込んだ月でもあったため、実質的には少し悪い。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・お中元ギフトはほぼ例年並みの動きだったが、梅雨明けが異常に遅かったことに加え、その後のゲリラ豪雨の影響も大きく、生ビール等の動きが鈍い。この遅れを取り戻すのは厳しい。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・売上は前年を下回り、全体的に見ても芳しくない。ニュースでは景気回復の傾向というような話を聞くが、身の回りでは全くといっていいほどそのような兆しはない。現に夏物の販売においては苦戦続きで、秋冬商戦でどこまでばん回できるかに掛かっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	単価の動き	・猛暑の影響で販売量は良かったが、度重なる仕入れ価格の上昇で、収益が圧迫されている状況は改善されていない。長引く低収益のため、経営状況に悪影響が出てきている。また、価格が高止まりしているため、心理的に節約志向が強まってきている。燃料以外の商品の荷動きが悪い状況が続いている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・お盆休み前までは祭りなどの影響で比較的忙しかったが、休み後は人出もなく、普段とそれほど変わらないような状況である。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・イベント的に通常の価格よりも安く提供しているメニューには、人気が集中してオーダーが入る。かといって、他のメニューが売れないということは今のところないので、景気は良くも悪くも無い。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今月は夏休み、七夕まつり、お盆とイベントがあったが、団体客は全くなく、個人客で補っている。入込はかろうじて前年並みだが、売上は5%減少している。猛暑のなか、温泉地としては健闘の部類ではないだろう。
観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・天候不順や他の行楽地の利用により、単価を下げて営業しないと集客できず、前年までにはいかない状況が続いている。

観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・お盆を挟んでの10日間ほどは客の動きも活発だったが、後半は逆に全く動きが止まっている。夏休みなのに子供連れの家族客は激減している。原発事故の影響がいまだに大きいとみられる。	
観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・8月の宿泊人数は前年を超えて順調であったが、安い商品が主力で、人数の伸びに売上がついてきていない。	
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン関係及びデパート地下のデリカ各店については、利用人員、単価共に比較的順調に推移している。	
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊部門は、前半は天候不順が続く例年期待できる海水浴客は前年を下回るが、後半に高校生のコンクールのブロック大会が開催され、動員数は何とか確保する。しかし、低単価のため、売上、予算共に前年に届かない。	
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門のみ変わらずに予算を達成できている。宴会料飲関係の落ち込みはあるが、大きな落ち込みではない。	
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・販売量や周りの観光施設関係、宿泊先などの話を聞いても、旅行業界では巷でいわれているような景気の上向きはみられない。	
旅行代理店（店長）	お客様の様子	・客に景気の良さがうかがえ、ゆとりが感じられる。	
タクシー運転手	お客様の様子	・客はより安い車を選んで乗っている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず夜間の客が極端に少ない。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・派遣やパート雇用の賃金の上昇もなく、相変わらず家計を圧迫している。ガソリン代の値上げもあり、遠出の外出を控えている傾向もみられる。よって先月より悪い傾向があるが変わっていない。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・アベノミクス効果で一時景気が上向きとなったが、その後の客の様子を見ても、平行線で推移している。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に関しては、それほど積極的な傾向は感じ取れない。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・依然として、客との商談からは好況感や設備投資意欲はうかがえない。復興関連業種は継続的に好調な雰囲気があるが、その他の業種からは好況感はうかがえない。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客からのヒアリング状況からも、特段の変化はうかがえない。	
観光名所（職員）	販売量の動き	・来客数は前年比100%を維持している。客単価も変わらない。ただ、お土産品を扱っているのだが、できるだけ多くの人に持って帰ろうとして、単価を下げ、安い物を大量に買うという方向に向いているようである。	
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み受注が止まらない。	
やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・全体的には地方の人口減少、高齢化に伴うマーケットの縮小がある。また、震災に伴う消費マインドの維持、高揚がいまだに追いつかない状況である。雇用の関係も良くなっているとはいえ、全般的には厳しさがあある。
	百貨店（経営者）	来客数の動き	・ガソリン価格の高止まりや、後半の高温等の影響もあり、来客数が減少している。また、夏物最終処分の不振や秋物立ち上がりの不振等により、前年割れをしており、3か月前の水準よりやや下がっている。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・お盆明け後、客の買上点数が下がり、買い控え、更にはディスカウント商品に移行する傾向が見られる。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・お盆期間中は帰省客の買物で売上が増大するが、今年に限っては来客数の減少が顕著であり、この期間の売上の落ち込みが8月の売上低迷の大きな原因となっている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏物が最終の価格になっても、なかなか売上に結び付かない。景気が良くなってきた様子は見られない。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・例年この時期はスーツはそれほど売れないので、サマーフォーマルなどフォーマルの需要を見込んでいる。しかし、今年は8月上旬まで梅雨が続く、暑くなるのが少々遅かったため、この時期に売れる商品が出遅れ、衣料品には頭が回らず、夏物の購入が控えられたとみられる。来客数が厳しい状況が続いている。

	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・前年はエコカー補助金終了前の駆け込み需要があったため、今年はその反動で3割強の落ち込みとなっている。ただ、新型車の受注並びに法人需要の受注等についてはほぼ想定どおりに推移しているが、個人需要についてはガソリン価格の上昇で一部に代替延長などを考えている様子が見られる。
	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・ねぶた祭りやお盆等で客足が少なかったが、後半に入り、少しずつではあるが、動き出してきている。
	自動車備品販売 店(経営者)	販売量の動き	・8月に入ってから商品の動きが特に悪い。前年同期と比べても悪い。9日の経験したことのない大雨災害の復旧作業などで、お盆の外出は例年に比べ大分減ったようである。
	その他専門店 [パソコン] (経営者)	販売量の動き	・例年と比べ、お盆前の受注が減少傾向にあった。
	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・今夏は猛暑及び諸々の値上げにより、来客数が減少している。
	一般レストラン (経営者)	それ以外	・円安の影響だとみられるが、材料費が3,000円台のものが4,000円くらいと、3割程度上がっている。その影響もあってか、集客も日によってかなりのむらがある。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・上旬の竿燈まつりは過去最高の人出を記録するなど、多少雨に降られた日もあったが、そこまでは非常に順調であった。しかし、9日の豪雨により新幹線が12日まで止まってしまったため、人の行き来ができない状態でお盆を迎えてしまった。盛り上がりを欠いたまま、消費の動向に移ることができず、非常に大きな影響が出ている。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・震災被災地特需はほぼ終了し、来客数、問い合わせ数共にこの2年間に比べると減り始め、来月の予約状況も前年割れとなっている。
	通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・8月上旬からようやく夏が続く、客の購買意欲が上向くかと期待したが、それほど消費活動に影響せず、来客数も少ないままである。
	遊園地(経営 者)	来客数の動き	・お盆に土日が繋がりがカレンダー的には良い条件であったが、高温が続いたことや、前年ほどの消費の力強さがないこともあり、来客数は7%ほど下回っている。
	美容室(経営 者)	お客様の様子	・シャンプー剤やパーマ液の値上げにより、施術料金を200~300円値上げしたところ、客から「今までグレードの高いパーマをかけていたけど普通の安い」といったことや、カットの際に「シャンプーを省いてその分料金を安くしてほしい」といったことを言われるようになった。値上げの分を節約する客はまだ多いようである。
	設計事務所(経 営者)	お客様の様子	・今までこなしきれないくらいあった住宅関連の仕事も、今月は少しずつ少なくなっている。
悪く なっている	百貨店(買付担 当)	お客様の様子	・7月以降、東北は長雨の影響で最高気温が低くなる傾向が続いており、来客数及び夏物商戦の数字に影響が出ている。
	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・耐久消費財を扱っており、特に2、8月は悪いのだが、それにつけても、暑かったり大雨だったり天候も不順で、来客数が思うように伸びず前年を下回っている。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・前月の半ばごろから突然動きが止まっており、前月は当社が始まって以来とっていいほど悪かった。今月も選挙と長雨の影響があったため非常に良くないので、前月と同様の状態になるかもしれない。
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・7月まではやや回復基調かとみられた客の状況に、8月はかなりプレーキが掛かっている。客の財布のひもはなかなか固いようで、オーダーは安く、しかも来客数は少ないという非常に厳しい状況である。
	通信会社(営業 担当)	単価の動き	・ほとんどの客はスマートフォンに変わっていて、販売量の動きとしては、お盆を挟んで3割ほど落ち込んでいる。
企業 動向 関連 (東北)	良く なっている	—	—
	やや良く なっている	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き
	建設業(企画担 当)	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み出件が医療関連で多く見られ、出件数は増加となっている。

	広告業協会（役員）	それ以外	・マスコミ業界は引き合いが活発化しており、この先も好調が見込まれる。あるテレビ局の長時間番組はイベント会場でのプロモーションもあり、飲料やノベルティ商品が品切れになる状況であった。
	その他企業 [工場施設管理]（従業員）	取引先の様子	・新品種を立ち上げているところであるが、物流は若干の増加傾向にある。
変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・贈答用のものの注文数及び販売単価が、前年とほとんど変わらなかった。品質的にも前年とほとんど同じである。
	農林水産業（従業者）	それ以外	・さくらんぼの出荷精算が終わったが、やや不作気味にもかかわらず、価格は例年より低くなっている。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アメリカ産牛肉の輸入が30か月齢以下のものまで拡大されれば、牛タンももっと入ってきて、総合的には相場も下がるとみてきていたが、2月に解禁になっても量的には緩和されず、ずっとシビアな状態にある。景気は若干良いまま推移しているが、大きくは変わっていない。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・七夕まつりは3日間とも平日ということもあり、売上は厳しかった。お盆の帰省需要で少しはばん回できたが、前年には届かない。
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量をみても、依然として景気上昇の気配はみられない。
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず販売量は、横ばいないしは微減で推移している。業界全体でも前月は前年割れとの報道がなされていた。
	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅部材の需給に変化がみられない。
	土石製品製造販売（従業員）	受注量や販売量の動き	・前月の大雨による土砂災害により、震災の復興事業工事もまだまだの状態で公共事業工事や補修工事が多く出てきている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は輸出環境が好転しているが、スモールカーが中心のため付加価値が減少している。
	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業の特に製造業では、受注量が増えているわけでもなく、悪い状況が続いている。中小企業からは、景気が上向きという政府の判断はどこを見て言っているのかわからないという声が聞こえてくる。
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・身の回りに影響のある携帯電子機器分野が受注量、販売量共に好調だが、その好調ぶりは大きく変わっていない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は部分的だが良くなっている。また、同業者でもバラつきがあるが、消費税増税ムードが出てきている。
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物量が低調に推移している。また、環境的にも明るさが見られない。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の継続契約案件において入札が定例化してきているなか、過去の逸注案件で復活するものも現れ始め、やや上向きの傾向が見られる。
	通信業（営業担当）	それ以外	・消費税増税への不透明な状況及び円高を警戒している。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・コスト減の話が主であり、戦略的投資など拡大路線の企業は皆無である。
金融業（営業担当）	取引先の様子	・メガソーラー関連は引き続き好調である。一方、株価、為替が一進一退の状況で、投資家も慎重になっている。	
金融業（広報担当）	取引先の様子	・原材料の価格高による仕入れ価格の上昇が続いている。	
経営コンサルタント	取引先の様子	・衣料品小売店ではバーゲンを行っても目標通りの売上が達成できない。	
公認会計士	取引先の様子	・クライアントの月次、決算状況から判断すると、建設関係は全体的に小康状態であり、人不足、資材高騰で利益はさほど好転していない。小売関係は売上が前年比で縮小している。	
その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・当社のデリバリーの範囲は塩釜及び海岸通りである女川から相馬までだが、震災からの復興がなかなか進んでいないようである。また、会社そのものは中小企業や小規模企業が多く、ボーナスは出ない、給料は下がったという状況で、なかなか販売に結び付いていないのが実情である。	

	その他非製造業 〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・県内、県外向け出荷共に安定して好調が続いている。一部の高額商品のほか、定番商品も順調なことから、飲食需要の好調がうかがえる。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・得意先の公益エネルギー企業の収支状況が低迷を続けており、その影響が当社の受注減に大きく響いている。	
やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・役所関係の仕事が大幅に減っている。復興関係以外の予算は削られているようである。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月までの売上は前年比プラスであったが、今月は前年比10%マイナスとなっている。	
	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・自治体における印刷物の入札で、価格競争が更に激化している。	
悪くなっている	コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年夏場は業績が下がる時期ではあるが、例年の状況も大きく下回っている。	
雇用 関連 (東北)	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比10%の増加となっている。また、3か月前と比べても12%の増加とやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・在職中の求職者数は増加傾向にあるものの、総数では減少が続いている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・派遣需要以外の有料職業紹介事業の増加や業務委託の新規増加等で単月売上が前年比プラスを計上できたことが現状維持を下支えしている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人サイトでの中途採用の件数は増え、1社当たりの応募数は少なくなっている状況は3か月前と変わらない。言い換えると、募集している企業が引き続き多いということである。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人と求職者のミスマッチ状態に変わりなく、特に求職者数に伸びがない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・悪天候と円安の影響で売上が低迷した販売やフード系のアルバイト、パートの募集件数が伸び悩んでいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・新規求人はやや高めに推移しているが、正社員採用は極めて少ない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・相変わらず広告出稿の動きは鈍い。しかし、放送は前年をクリアしているようなので、これは地方新聞に限ったことのようなのである。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人数は引き続き前年同月比で増加を続けているものの、これまで前年同月比で減少が続いていた新規求職者数が、わずかではあるが増加に転じているのが気に掛かる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今年度に入ってから、新たな離職者数の増加は減少しているが、求人数が増加しない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、若干の増減はあるものの引き続き高水準を維持している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数全体では前年比増加が続いているが、業種別に温度差があり、新規開設による増員は一部で、多くは更新によるものである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・基幹産業である製造業の求人が増加しており、求人倍率も3か月前より0.15ポイント増えているが、まだ景気が上向いている状況とはいえない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は業種ごとで多少の増減はあるものの、高止まりの状況が継続している。	
	民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・求人企業は相変わらず、復興や介護福祉、物流といった業種に偏っている。	
	やや悪くなっている	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・ここ数年続いていた震災関連の仕事は、津波の被害が大きかったところ以外ほぼなくなってきたので、仕事が減っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数はここ数か月横ばい状態である。特に期待していた地元企業からの雇用が思ったほど増えていないのが現状である。
	悪くなっている	—	—	—